



け なに つく 消しゴムは何でできているの、どうやって作るの

なま いおう しょくぶつ あぶら くわ つく 生ゴムに、硫黄や植物の油を加えて作る

むかし け
昔、まだ消しゴムがなかったころは、パン切れなどをつか、じを消していました。

1770年、イギリスのプリーストリーというかがくしゃは、ゴムで、えんぴつが書いた字をこすると、じが消えることをはっけんしました。このことがきっかけとなって、ゴムが使われるようになりました。

ご かいりょう くわ げんざいつか け
その後、改良が加えられて、現在使われているような、消しゴムになりました。

け ざいりょう き なま なま ね いおう
消しゴムの材料は、ゴムの木からとった生ゴムです。生ゴムをよく練り、それに硫黄やしょくぶつ あぶら
植物の油、そのほかに、いろいろなものを混ぜて、なんにち お
棒のようにながのばします。

なが いおう ま ねつ くわ き おお き あ
ながのばしたものに、硫黄を混ぜて熱を加え、それを決まった大きさに切ると、でき上がります。

つく プラスチックで作る

さいきん じけ け あお
最近、プラスチック字消しとよばれる、消しゴムが多くなりました。これは、プラスチックをおもな材料にしてつくる、消しゴムです。

せい せい いろ かんたん
プラスチック製のほうが、ゴム製よりも、においや色をつけるのが、簡単にできます。
(監修・青木 国夫)

